

第2回 アクティブステージ研修

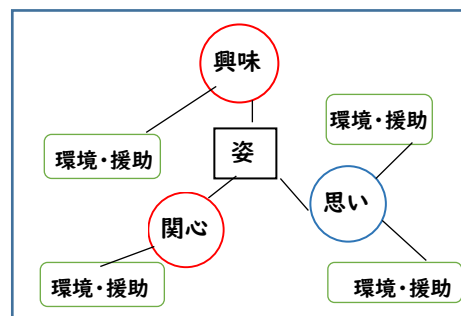
令和6年10月29日(火)

講演 「子どもの学びや経験を読み解くために」

講師 京都教育大学 准教授 佐川 早季子氏

1. 事前課題「ウェブマッピング」を語る(グループワーク①)

- ・グループ内で各自、事例の
「子どもの姿・様子」から
「子どもの思いや興味・関心の見取り」
「環境構成・援助」
を記したウェブマッピングについて報告し合う。



2. 佐川先生講演「子どもの学びや経験を読み解く」

◇ 動画視聴「ほのちゃんについて」

子どものやっていることや表情などは「事実」として、事実をもとに考えられることを「解釈」として書き出す。

- ・ポジティブな面を意識して。引き算ではなく、足し算で観ましょう。

例：泣く→自己表現できた！

- ・表情、視線、体のこわばりなども含めて細かく観ましょう。

◇ 一人一人に応じた保育・教育(幼稚園教育要領解説)

今の社会では、身の回りのことを自分でできたとか、みんなと同じ活動ができた、集団活動に乗れないという可視的な力・能力で成長・変化を捉える傾向が強くなっている。

保育・教育で育てたい子どもの育ちは、「自分でやることに喜びを覚えているか」などという心のありようである。子どもの育ちは見えにくいからこそ、子ども理解が大事。

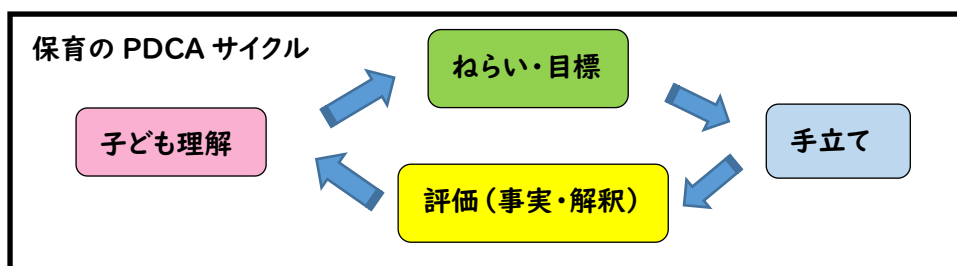
いかに子どもを見る力を養い、子どもの体験から環境構成・援助を探り、子どもの行為に気づく力をつけていくか。

そのために・・・

具体的な場面を共有し、互いの見方について語り合い、援助を「何のためにそうするのか」という目的に基づいて理解してい

語り合いを通して、自分とは違った子どもの姿の見取りから、新たな「事実」に基づいた手立てを探ることができる。

事実を拾う力と事実を束ねて解釈する力
が「ウェブマッピング」を通して培われる。



◇スライド「たまごちゃんとの出会い」

～子どもの事実を拾い、次の保育の手立てを考えていった事例～

- ・やりとり等を含めた人的環境としての技能
- ・教材や素材、遊びの構造、環境構成等に関する知識

あわせて

次にどうするかの手立てを考える

3. 「ウェブマッピング」をさらに深め、事実から環境構成や援助を探る（グループワーク②）

- ・グループ内で一つの事例を選び、「子どもの姿・様子」から「子どもの思いや興味・関心の見取り」そして「環境構成・援助」について話し合い、ウェブマッピングについて2グループから報告。（※ → グループ討議で深めたところ）



【グループ1】

★5歳児 金魚すくいごっこ

空き箱とペットボトルキャップで、実際に体験した金魚すくいをごっこ遊びに再現した事例。

- ・画用紙のポイから「やぶけるポイがいい」「すくえないのが面白い」とティッシュのポイ作り。
- ・空き箱に水を入れたいとの子どもの願いを聞いて、入れてみたところ、空き箱から水が染み出てくる気づきがあった等
- ・お店として発展。他学年を巻き込んでする。3歳児には、破れないようにお玉や網のポイにする等（思いやる心が育つ）
- ・トレイ等いろいろな廃材を用意することで、船作りや魚釣りに発展させることもできる。

【グループ2】

★5歳児 アサガオの色水遊び

アサガオによって色が違うので、もっと色を出したいと手もみで色を出して楽しんでいた。コツを掴んだ子が友達に色出しの仕方を教えていた事例。

- ・すり鉢を使って色出しをする等、道具との出会いでさらに遊びが広がる。
- ・他の花も用いて、花によって色が違うことやまた、色が出ない花もあることの気づき等、新たな発見につながる。

4. 参加者の声や気付き

- ・ウェブマッピングにすることで、子どもの姿の見取りが可視化され、援助や環境づくりを考えやすくなりました。そこから、次にどうするかを考えていくのにも役立ったと思います。
- ・子どもの姿から事実を拾い、解釈していくということと同じ動画を見ながらグループで話し合いを行う中で、気づいたことを言語化することでよりその子の変化について意識できることを感じました。
- ・今まで、事実と解釈を意識して分けて考えることがなく、今回の研修を通して、事実を拾う力の大切さを学ぶことができました。またその事実も、他の方の話も聞くことで、自分が見ているものだけでなく、色々な見方ができました。

佐川先生の総評

ウェブマッピングは、文章で書く必要がないので、気軽に書けると思う。どのグループも子どもがこういうふうにしてみた等を書いておられ、子ども達がどこを追及したいのか、ウェブマッピングの中で捉えられていた。また、グループで発展の可能性も話されていた。今回はこういうことを手探りで話されていたと思うが、園の中で子どもを知っている者同士で話すことで、また「この間、こんなことをしていたよ」等、新たな情報が子ども理解の面で、子どもの興味・関心に付け加えられていく。そこから発展や可能性等も見えてくる。メモ書き程度でできるという利点がウェブマッピング方式。次の保育に繋げていくことに有効である。

作成者 幼児教育アドバイザー 木村 志奈